

犬山城跡について

いぬやまじょうあと 犬山城跡

所在地	： 犬山市大字 <small>おおあざ</small> 犬山字北古券 <small>あざきたこけん</small>
指定面積	： 既指定面積 45,905.63 m ²
	： <u>今回追加指定面積</u> 3,367.58 m ²
	： 合計面積 49,273.21 m ²

【概要】

犬山城跡は、木曾川沿いに接する独立丘陵を中心に築城された中近世の城跡である。国宝犬山城天守を有し、本丸やもみ縦の丸、松の丸などからなる。江戸時代には尾張藩付おわりはんつけ家老成瀬正成がろうなるせまさなりが城主となり、以後も歴代城主は成瀬家が務め、明治維新に至る。

2018（平成30）年2月13日にはその学術的価値が評価され、史跡に指定された。指定後は管理団体である犬山市によって、その保存と活用が図られてきた。

2021（令和3）年度には、犬山市によって、絵図などの文献資料から城の内外を区画するおおてもんますがた大手門枡形※と想定される場所（犬山福社会館跡地）において発掘調査が実施され、江戸時代の堀跡などが確認された。発掘調査で確認された遺構は、史跡犬山城跡の本質的価値を構成するものであり、今回史跡範囲の追加指定を行う。

※枡形：城郭の出入口に設けられた、石垣や土塁で囲った広場。

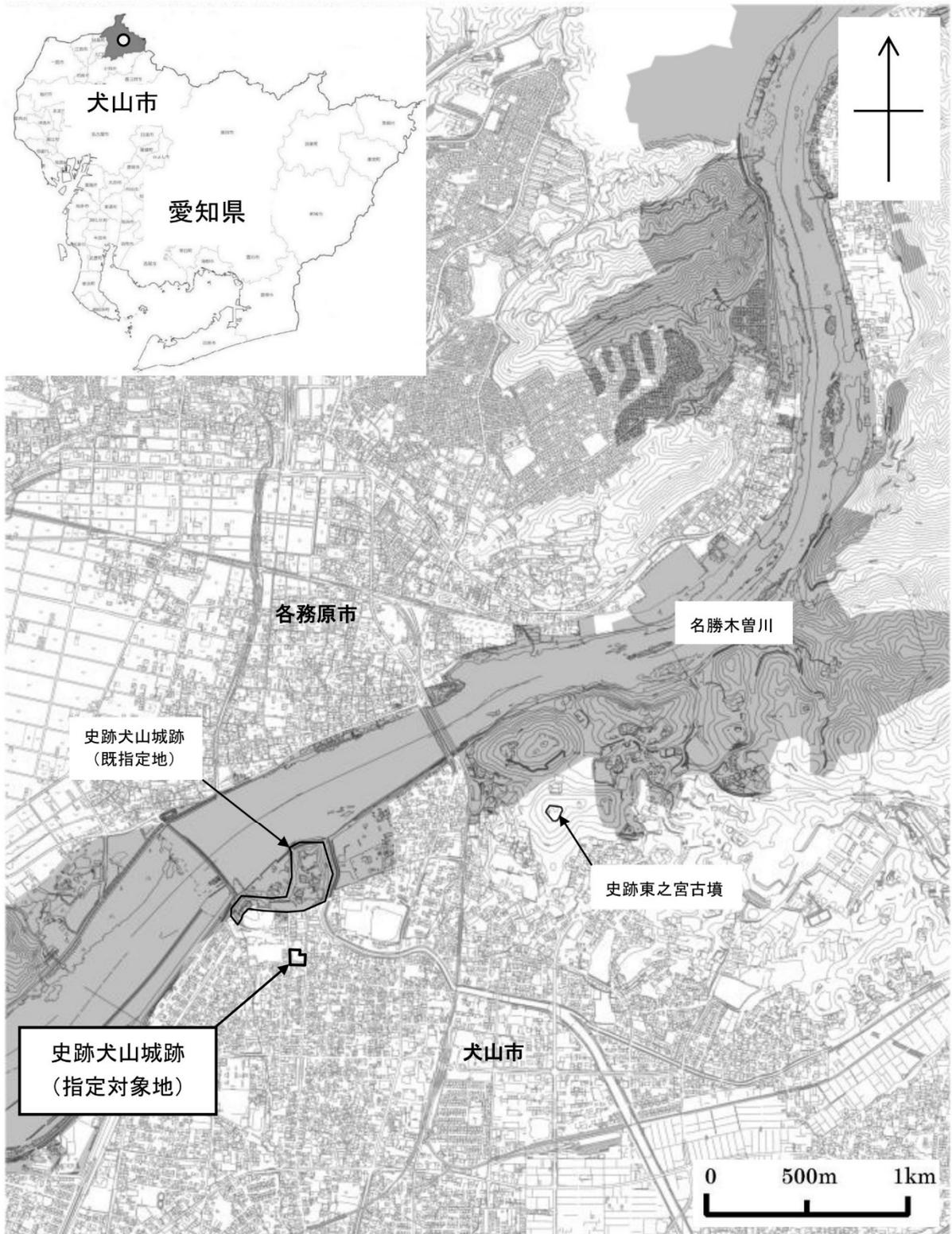


図1 犬山城跡の位置

(犬山市教育委員会提供)



写真1 犬山城跡（西から）



写真2 追加指定地（南から）
（赤線が追加指定範囲）



写真3 発掘調査で確認された江戸時代の堀跡（東から）

※写真はすべて犬山市教育委員会提供